

令和7年度全国学力・学習状況調査 本校の結果と今後の取組

織田中学校

このほど、本年度の4月に3年生対象に実施されました全国学力・学習状況調査（全国学調）の結果が届きましたので、概要をお知らせします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎないことをお断りしておきます。

1 各教科の結果

	国 語	数 学	理 科	※全国、県の平均正答率との比較 ◎…5 ポイント以上上回る ○…±5 ポイント △…5 ポイント以上下回る
福井県との比較	○	△	○	
全国との比較	○	△	○	

2 質問紙の結果

- ・「学校に行くのは楽しい」に対する肯定的回答（「当てはまる」と「ややあてはまる」の合計）が、県・全国平均を上回りました。また、「自分にはよいところがあると思いますか」と「友達関係に満足していますか」に対する肯定的回答の割合が高く、自己肯定感を持って生活できている様子がうかがえます。さらに、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対する肯定的回答も高く、学級の友人とともに学ぶ協働的な学習に対して前向きな意見を持っていることがうかがえます。一方で「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定的回答は、県・全国平均を下回りました。生徒主体の活動を進めていく中で教員からのアプローチに課題が見られました。
- ・「読書は好きですか」に対する肯定的回答は、県・全国平均を下回りました。読書に対する意識を高めることに課題が見られました。

3 今後の取組

<国語>

- ・自分の考えを明確にしながら論理的に書く力を養っていくために、物語教材では筆者の書きぶりについて批評文を書く活動を取り入れていきます。
- ・表現教材では、スライドの役割や効果的な表現を確認してから活動に入るように授業展開を工夫します。また、説明や報告の活動でも伝えたいことを分かりやすく伝えるために、また説得力をもたせるために、どのような図表があるとよいかを吟味させる活動を取り入れていきます。
- ・国語の学習に苦手意識を持つ生徒には、個別の声掛けをするとともに、授業の終末には振り返りの時間を確保して自分の学びをメタ認知させ、家庭学習につなげていきます。また、前時の振り返りをしてから授業に入るようにしていきます。

<数学>

- ・文字式が表す意味や資料（文章、図、表、グラフなど）から読み取れることを表現する力をつけるために、授業中にモデルを示し、数学的用語を用いて表現することに継続して取り組みます。
- ・計算式を正しく書いたり、文章から読み取れることや資料（図や表、グラフなど）から分かったことを書き込んだりすることで、自分の思考を正しく整理し筋道立てて問題を解けるようにします。
- ・全員が「分かった・できた」と実感できるように、授業中には基礎基本の問題に取り組む時間を十分に確保します。また、学習アプリを活用して自分に合った問題に取り組ませることで、学ぶ意欲の向上に努めます。
- ・「学びたくなる身近な課題の設定」や「学んだことの振り返りやその知識が活かせる場づくり」などに努めます。
- ・数学の学習に苦手意識を持つ生徒には個別の声掛けをするとともに、家庭学習ではつまずきが見られる単元の基礎となる部分を学習アプリを使って復習できるようにします。

<理科>

- ・身近な事象から得られるデータを教材とした実験・観察を行い、日常的に理科の知識を活用する場面を設定し、理科の有用性を実感させる授業づくりに努めます。
- ・資料から読み取り分析した内容と自分の知識を関連付けて理解する力を伸ばすために、授業では身近な事象や既習事項から課題を見出し、見通しをもった科学的探究の機会を充実させていきます。
- ・理科の学習に苦手意識を持つ生徒には、授業では適宜声掛けやヒントを与え、見方・考え方の視点を支援していきます。また、学習アプリを活用して基礎・基本の定着をめざし、家庭学習が行えるようにします。

<その他>

- ・今後も「すべての生徒がわかる楽しさ、学ぶ喜びを味わい、学びを実感できる」授業を目指して、日頃の授業改善に取り組みます。
- ・安心感の醸成を基本として、生徒同士が関わりあう協働的な活動形態を設定したり、学校行事の企画や運営に生徒を参画させたりすることで、達成感や充実感を味わえるようにしていきます。また、日頃からすべての教育活動を通して、生徒一人一人のよさを発見し、そのよさを生徒も教職員も伝え合う機会を増やしていきます。